



森のなかま

2023年 7月号

NO. 181 (継続326号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 黒川 敏史
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

令和5年度 かながわ森林インストラクターの会 通常総会開催

(記 野村 昭憲 総務部長^⑭ / 写真 末原 興一^⑮)

令和5年6月11日(日)に、特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会通常総会が、総勢190名(会場出席者43名 および 書面表決、委任状を含む)の参加を得て、相模原市ユニコムプラザさがみはら セミナールーム2の会場にて、13:30~16:30の時間で開催された。

野村 昭憲 総務部長(14期)の司会・進行により開会宣言、佐藤 恭平理事長(1期)の挨拶に続き、今回、ご多忙の中出席いただいたご来賓 県環境農政局緑政部水源環境保全課 井出 博晶課長様、同 黒田 彩愛 主事様、かながわトラストみどり財団 新井 匡 専務理事兼事務局長様の紹介と挨拶を頂いた。

次に、議事の審議に入る前に、感謝状の贈呈式が行われた。今年度は、長年にわたり当会に多額のご寄付をいただいた小田原市在住の「北村 毅」様に感謝状を贈呈することになった。なお、北村様は当日ご欠席のため、7期の「山崎 實」様に代理受領をお願いした。

次に、総会成立宣言の後、議長に小池 宗子氏(17期)、書記に田中 高大氏(16期)、三浦 由香子氏(17期)、議事録署名人に佐藤 恭平氏(1期)および 山口 久基氏(11期)を選出し、総会議事の審議がスタートした。

議事の円滑な進行のため、第1号議案である「令和4年度活動報告及び決算(案)」は、山口事務局長と石井会計部長、末原監事から一括して報告いただき、質疑・応答ののち、賛成多数で可決された。次に、第2号議案である「令和5年度活動計画及び予算(案)」を各担当に個別に報告いただき、質疑(事前の書面質疑を含む) 応答ののち審議し、賛成多数で可決された。最後に、第3号議案である「役員を選任について」、当期(令和3年7月1日から令和5年6月30日)の理事が紹介され、次に次期役員として11名の理事候補が紹介され、賛成多数で可決承認された。

○ 令和5年度の会活動方針は

- ・ 安全最優先
- ・ 会員の資質向上
- ・ 管理部門(事務局、総務、広報、会計、NW 派遣管理)の機能強化

各理事の氏名と役割分担は最終ページに掲載しました。



＜森林文化部会主催＞—6 つ目編竹細工教室

日時----2023年4月20日 18時30分～20時30分

場所----藤沢市市民活動支援センター

講師----真貝 勝 11期

参加者 16名

(記・写真：堀口 俊司^⑩)

日中は季節外れの夏日でしたが夕方には春の心地よい風が吹いてきました。

森林文化部会主催の竹細工教室が4月20日藤沢市市民活動支援センターにて講師を含め総勢16名で開催されました。



参加者のほとんどが初めての竹細工だったため悪戦苦闘しながら竹ひごを編んでいきました。講師の真貝さんの指導の通りに進めるとだんだんと一輪挿しの籠の形になっていくのがわかり、次第に細部にこだわった組み方をする余裕さえできました。

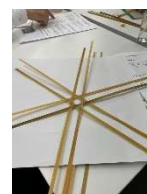
竹ひごは濡れている状態では曲げなどの加工もし易いですが、すぐに乾いてしまうためバケツの水に浸したり霧吹きで常に湿った状態にしながら組んでいきます。

全員が時間内に竹細工の入門編である一輪挿しの竹籠を無事に完成させることができました。「竹のかわせ」様から今回の教室のためにたくさんの竹ひごをご提供頂きました。使いきれなかった竹ひごは竹細工の復習をするため各自持ち帰る事にしました。竹林整備等でただ切るだけでなく竹細工の材料など資源として二次利用に活用できれば良いと感じました。



《参加者の完成作品》

今回竹細工の基礎を教えて頂いたので次回の竹細工教室ではより大きな竹籠作りに挑戦したいと思います。



<自然観察部会活動> 自然観察会

開催日：2023年4月23日(日) 9:30 ~ 15:00

場 所：《春爛漫の渋沢丘陵》

参加者：大人32名

主 催：かながわトラストみどり財団

講 師：⑨内野ミドリ ⑭西岡一郎 ⑭牧石 稔 ⑪松永 廣

(記：松永 廣⑪ 写真：河西 静夫⑮、松永 廣⑪)

本年度から新たな活動になりました、かながわトラストみどり財団主催の自然観察会です。参加者 32 名、かながわトラストみどり財団 2 名、かながわ森林インストラクターの会 4 名 合計 38 名の観察会です。

自然観察日和の晴天の朝、渋沢駅近くの曲松いちよう公園でオリエンテーションを開催して3グループに別れて出発です。

最初の観察樹木は秦野市指定天然記念物國榮稲荷神社の大きなイチヨウです。近頃は縁結びのパワースポットとして又合格祈願の受験生が訪れるようです。



イチヨウ



渋沢丘陵

市街地を抜けると整備された観察コースを登っていきます。コースには自然豊かな生態系が広がり、日本古来の植物に交じり外来種も観察できます。在来種として、カントウタンポポ、オドリコソウ、フタリシズカ、キュウリグサ、コゴメウツギ、ハナイカダ、などが観察でき、インストラクターの説明に参加者も納得しているようでした。渋沢丘陵からは秦野市街、丹沢の山並みが一望できて景色を楽しみました。



カントウタンポポ

しばらく登っていくと、オオバウマノスズクサが観察できました。この植物の花は非常に面白い形状をしており、サクソフォンを連想するようで、みなさん写真撮影をしていました。



オオバウマノスズクサ



オドリコソウ



フタリシズカ



ハナイカダ

しばらく観察を楽しんでいると震生湖入口です。震生湖は関東大震災時にできた最も新しい自然湖です。ここで湖面を眺めながらみなさんお昼です。

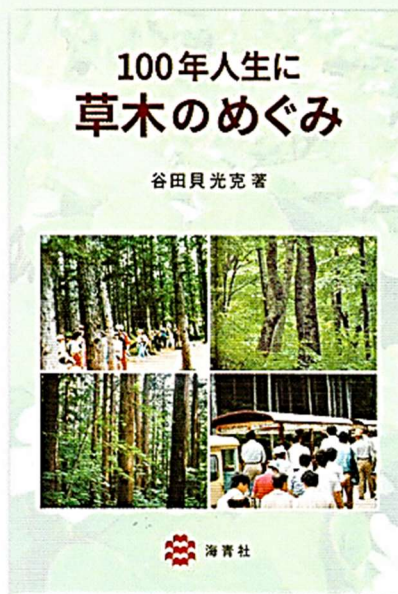
ここからは下り坂で“水の都”秦野の市街地を望みながら観察です。白笹稲荷神社のカゴノキなどを観察して最後に今泉名水桜公園のきれいな水を堪能して秦野駅で解散しました。




本で紹介
100年人生に『草木のめぐみ』 谷田貝 光克 著 海青社

この本は本会(かながわ森林インストラクターの会)の会報誌森のなかまに2014年4月から連載「森のめぐみ」を執筆頂いている谷田貝先生が著者です。その「森のめぐみ」を基にして構成されています。古くから現代までの草木の生み出す様々な力(健康、セラピー、薬や癒やし、そして、地球温暖化抑制、カーボンニュートラル等)が科学的に書かれており真実を冷静に知る事ができます。執筆者紹介記載の他にも以前には香りの図書館館長も務めていました。また、ネパール等の海外にも炭焼き指導に行かれたりしています。本会11期の徳岡氏が中心で活動している”湘南二宮・ふるさと炭や焼き会”もご相談をさせて頂きました。また、科学的データをもとにした「木竹酢液ハンドブック」も一読をお勧めいたします。

<記: 11期 松本 保>

植物が健康に関わる新たな働きを紹介する


100年人生に 草木のめぐみ

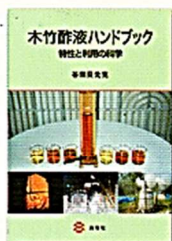
谷田貝光克 著

- 冊子版：四六判、184頁(カラー6頁) 定価1,870 [本体1,700+税] 円
ISBN978-4-86099-399-3
- オンライン版：無期限1,870円、1-yearアクセス935円 *小社ウェブで販売。

人は自然のめぐみのなかで暮らしてきました。今、そのめぐみをあらためて見直す時を迎えています。カーボンニュートラルな資源として注目される植物の健康に関わる新たな働きを紹介。



内容見本はこちら


関連書・好評発売中


木竹酢液ハンドブック 特性と利用の科学

谷田貝光克 著

定価2,860 [本体2,600+税]円
A5判180頁2015年刊
ISBN978-4-86099-284-2

土壌改善、植物の成長促進、虫害対策、防腐、消臭等、科学的データをもとに木竹酢液の効能と特性を紹介

◆主要目次

1. 森のめぐみを考える
2. 森のめぐみのもとになる草木の成分
3. 森に漂う木の香り、その正体は？
4. 多様な働きをするポリフェノール
5. 薬効など生理活性を持つ配糖体サポニン
6. 植物の色のもとになるフラボノイド
7. 草木の色の利用
8. 草木は成分によって生き抜く術を得ている
9. 健康を保つのに役立つ植物成分
10. がんを防ぎ・抑える
11. 森のめぐみを見直そう

◆執筆者紹介

谷田貝光克(やたがい みつよし)

理学博士。東京大学名誉教授、秋田県立大学名誉教授。ふるさと精油をつなぐ会代表、農学生命科学研究支援機構理事長、日本木酢液協会会長、炭やきの会会長。日本農学賞、科学技術庁長官賞等受賞。著書多数。

フリーダイヤル FAX 0120-535-939 / TEL 077-577-2677 または 小社HPでご注文ください

《本用紙でお申込、またはHPでメール会員にご登録の場合は送料無料。代金は後払いです。振替用紙を同封して送付いたします》

*公費注文の場合は見積書・納品書・請求書の宛名と日付もご指示ください。



海青社

〒520-0112 大津市日吉台2-16-4 Tel. 077-577-2677 Fax. 077-577-2688
HP: www.kaiseisha-press.ne.jp, eStore: www.kaiseisha-press.ne.jp/estore.html



・次(第52)回の森のめぐみの掲載は8月号です。

2023 年度水生生物研修会・調査活動

1. 日時・場所：2023 年 5 月 13 日(日)9：30～15：00 「やどりき水源林」寄沢・集会棟横
2. 参加インストラクター：16 名
L 井出①、菊地①、吉田①、飛田①、國弘①、石垣①、久次米①、内田①、三浦①、高谷①、小国①、大谷①、野口①、田島①、藤田①、小野寺①
3. 目的：水生生物初心者研修会。寄沢の状況確認
4. 主催：やどりき事業部土壌水生班

(記 井出 恒夫①)

酒匂川の源流域にある自然豊かな「やどりき水源林」では、森林ボランティア活動や企業の森づくり活動が行なわれ、県民が水源林とふれあう場として活用されています。

特にやどりき水源林の中心部を流れる寄沢は、529ha の広大な森林から流れ出る水を集め、豊富な水量とともに、水に含まれる森林の栄養をエネルギー源として多くの水生生物が生息しています。このため、水生生物を観察する催しが広く行われており、多くの人に参加する人気の企画となっています。かながわ森林インストラクターの会の担当事業部では、水生生物観察に対応できるよう、毎年寄沢の調査を行い、指導員を養成するための研修会を行っています。

今回の研修会は、今年新しくインストラクターのメンバーに加わった 17 期生を中心に、水生生物の採取方法、抽出方法について指導を行い、「水生生物の話」と題してパワーポイントで解説を行いました。前日の天気予報では弱い雨とのことで、実施可能と判断し活動を行いましたが、当日現地ではかなり強い雨が一日続き、雨の中での研修会となりました。

午前中は 4 班に分かれて、寄沢および支流の滝郷沢で水生生物採取を行いました。その後屋根のあるエリアに移動して、生物の抽出を行いました。雨で、生き物の採取がうまくできるか心配しましたが、カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、ガガンボなどの各幼虫、カジカやカジカガエルなどの魚や両性類も見つけることができました。多くの生き物が見つかり、今年の水生生物観察会も、予定通り開催できる目途が立ちました。

午後はパワーポイントで、水生生物の見分け方や独特の生態について解説を行い、この研修を締めくくりました。これからもやどりき水源に来られた方々の期待に沿えるよう、調査活動・指導者の育成を行っていききたいと思います。

«水生生物研修会に参加して»

(記、写真 三浦 由香子①)

今までの活動の中で木々や草花、虫や動物たちなど、やどりきの豊かさを感じ、澄んだ沢の様子も見ていましたが、水の中にどれだけの世界が広がっているのかはなかなか見えなかったの

で、水生生物研修会は楽しみにしていました。
5月の雨のやどりきは、前日までの夏日和から一変して気温が下がり寒さを感じるほどでしたが、緑が深まり始めた森が雨で潤ってとても美しい景色を見ることが出来ました。雨の中では大変かと思っていましたが、採集をはじめると川の中の石をひっくり返したり、生き物が潜んでいそうな落ち葉をかき集めたり、川遊びをする子供のように夢中になっていました。集めた“生き物がいるであろうバケツの中”は、見た目には落ち葉や砂交じりの水溜まりでした。時々、目にとまるようなガガンボの幼虫やサワガニ、カジカが採取で



きた時は大人げなく喜んでいました。

生物の採集は2か所、木々に囲まれた落ち葉などの有機質なものがたくさんある滝つぼの付近と、オープンエアで砂と石の上を絶えず水が流れている沢で行い、川の環境の違いも体感することができました。そうして集めたバケツの中身は、想像以上の生き物の世界が広がっていました。

バケツから白いバットに流し込んだ落ち葉と砂交じりの水の中から、小さいスプーンやピンセット、スポイトなどで生き物たちを取り上げていくのですが、それもまた夢中になって小さい生き物たちを追っていました。

カゲロウ、カワゲラ、トビゲラは見分けがつかないものもあり自分では同定が難しく感じましたが、水生生物観察の先輩から違いを説明してもらおうと、それが新たな発見となり喜びとなりました。小さいサワガニはもう少し後の時期の採取では、成長した大きいものが観察できるというお話や、採集の最中ガガンボの幼虫がお尻で呼吸をするのが見れたり、これが成魚なのかと思うくらいかわいいサイズのカジカ、癒しの鳴き声を奏でている主のカジカガエルとの対面、未知との遭遇のような不思議な様子のプラナリア… 清らかで澄んだ川の中には想像以上の生き物の世界があると感じました。

雨足が強くなった午後は、集会棟にてスライドで資料を投影して水生生物について、改めて学んでいきました。一度では頭が整理しきれないほど生き物の世界は多種多様だと思いました。そして、環境によって生活する水生生物の種類が違うのですが、やどりきの川からきれいな環境に生息する生き物が採取できるのは、さすがだと思いました。

水の中の世界は奥が深くまだまだ水生生物については語り切れませんが、この研修を通じてインストラクターとして水生生物の観察の楽しさと、森がはぐくんでくれる豊かさを伝えることはできるようになったと思います。「自身で体験してみんなで共有する」は、子供はもちろんの事、大人にも大切な事だと感じる事ができました。

また今回の研修で、雨のような悪天候が伴う場合の対応や開催の判断についてもインストラクターとしての難しい対応が求められることもあるのだと感じました。この研修のために準備を重ねていただいた先輩のみなさまへ、準備を重ねていたにも関わらず様々な変更を余儀なくされ大変であったと思いますが、このような機会を設けてくれたことに改めて感謝しています。



カジカ

かながわしずくちゃん Twitter は下記URLで見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

https://twitter.com/kanagawa_sizuku

人も自然も
いきいき丹沢

丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

活動短信

今回の掲載は R5 年 4 月 20 日から R5 年 5 月 24 日分です。寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

7 月(文月)(旧暦 6 月水無月)の
二十四節気と雑節、鎌倉の田んぼ

二十四節気 : 小暑 7/7 大暑 7/23

雑節 半夏生(7/7) 太陽高度が高くなり、田植えなど農作業の終わり。ハンゲショウが白い葉をつける。田んぼでは田植えが終わり、生えてくる雑草との戦い、田の草取りです。



作業前全体説明

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部
水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

I インストラクター① (○数字: 期) **研**: 研修枠

以下、本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

横の整備された竹林の奥にあたる未整備の竹林の皆伐作業に当たったが、1~3 班と 4~5 班の活動エリアは 500m ほど離れておりお互いに活動を見ることはできない距離にある。ここ里山の 22 年前は、農家の裏山であり、クヌギ・コナラ等の広葉・落葉樹林に竹が侵入し徐々に広がった竹林です。

指定管理者は神奈川県公園協会、小田急ビルサービスの 36ha の里山保全エリアになります。昼食をした「谷の家」の前の整備された竹林で毎年竹の本数とタケノコ数のデータを積み上げて管理している。整備された竹林は約 1,000 本の竹があるが、2 倍強の 2,000 本のタケノコが出ます。1,000×1/6 に当たる約 200 本をタケノコの中から親竹として選択し、1,800 本のタケノコを掘り、旬の食材として美味しく戴く日本の習慣により皆様にお分けし、秋に 7 年目になる竹の伐採を 200~300 本伐採し、常時 1,000 本程度をキープすることで竹林の保全を行います。今回の活動は竹林の皆伐が目的で作業を行いました。仮に 1,000 本の竹林を放置すると、秋には

3,000 本の鬱蒼とした竹林に成長し、更に放置すると大変な竹藪になることがお判りになります。本日の



作業後 竹林の様子

活動では皆様の協力によって、怪我もなく約 280 本の竹の伐採成果があった。除伐活動時間は 2 時間手際よく作業頂き、3m の稈(かん)と枝葉に分別しチップパーにかけ易い様に指定の場所に積み上げて終了した。食事のあと公園のご厚意で、有志が残りタケノコ堀を行って、各自タケノコをお持ち帰り頂くことが出来、満足して頂ける活動だった。

(記、写真 小林 照夫¹⁶)

◆ 第 1 回 県民参加の森林づくり (除伐 竹 筍)

日 令和 5 年 4 月 20 日(土) 9:30~12:30 晴

場 茅ヶ崎市芹沢(県立茅ヶ崎里山公園)

参 60 名

財 藤本様、古館様 **看** 関様

スタッフ 県信連 湯浅様 岡本様

県立里山公園園長 浅岡様、西村様

I L 山口¹¹、柏倉⁴、東¹²、兵頭¹⁷、小笠原¹⁰、石垣¹⁵、八木¹⁷、吉田¹¹、竹内¹⁵、小池¹⁷、大原¹³、飛田¹⁵、高谷¹⁷、小林¹⁶、小松¹⁴、三浦¹⁷

朝から 20℃ を上回る好天に恵まれる中、茅ヶ崎市にある県立里山公園パークセンター前広場にて受付、検温、駐車券回収、班毎に整列、マスク着用は各自判断とする。活動確認を行った後、1 班から順に竹林にある谷戸(ここでは谷一文字でヤトと読む)に下り、1~3 班は雑木林 II と呼ばれている竹林内を三班で各々の急斜面エリアに繁茂する竹の皆伐伐採を行った。4~5 班は「谷の家」

◆ 日揮グループ 塚原水源林保全活動

日 令和5年4月22日(土) 曇時々雨

場 塚原水源林

参 一般参加者 9名 (大人8名 子供1名)

県 水源環境保全グループ 村松様

イ L 上宮田⑩ 内田⑰

雨予報の中、日揮(株)の皆様をお迎えしました。

少し肌寒い気温でしたが、作業には適温かなと感じる位でした。今回の作業は、2年前に植林した木々の周りの下草刈りです。

参加者のほとんどが植林を経験されていて、木々の成長ぶりに目を見張り作業を行いました。時折雨が降りましたが、休憩時間を調整しながら予定通りの作業を終えることができました。

初参加の方は道具の扱いに慣れない様子でしたが、すぐにコツをつかみ丁寧に作業をしていました。作業が進むにつれ笑顔も増え「楽しい〜」「気持ちいい〜」という声を聞くことができました。



休憩時間には、近くにある植物話をしたり、コクサギの葉を手に取り匂いを嗅いだり、和やかな雰囲気でした。

作業終了後には、2年前にお子さんが植えた木々の写真を撮っていた方もいました。お子さんと木々の成長を



重ねていらしたのか感慨深そうでした。シンボルツリーとして植林したもみの木は、樹高こそ高くありませんが、ずっしりと根をはり存在感のある成長ぶり！今後の成長も楽しみです。雨の中での作業となりましたが、新緑と自然の香りを楽しんでいただけたのではないかと思います。次回は、さらに成長した木々を見ていただきたいです。(記 内田 祐子⑰、写真 佐藤 恭平①)

◆ 株式会社 鈴廣蒲鉾本店 新入社員研修

日 令和5年4月28日(金) 13:00~15:30 晴れ

場 やどりき水源林

参 大人12名

県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課

水源の森林推進グループ 岡田様、村田様

イ L 牧石⑭、堀口⑯

今回の新入社員研修は平成19年度成長の森「19-10、11」にてカツラの間伐活動を行った。

13時、集会棟前に集合したのち用具倉庫へ移動。林道に設置されている「森は水のふるさと」の看板を使い県内で利用されている水道水(酒匂川水系、相模川水系)について説明実施。

用具倉庫前に到着後、最初に準備体操を行い、用具搬出、用具装着、開会の挨拶を行い平成19年度成長の森に移動開始。

寄沢は渡り板を使い対岸に移動し13:45現地に到着。成長の森に設置されている名板の前で



「成長の森事業」について説明実施。参加者12名は2班に分かれ、間伐手順、用具の説明を行い、伐倒方向を決定したのち交代で受け口、追い口を作り、各班1本の間伐を行った。14:45間伐現場より移動開始し鈴廣蒲鉾様の「恵水の森」看板に移動。



参加全員で記念撮影実施後、道具倉庫に移動し用具の整備、用具の返却後、参加者に怪我等が無いことを確認したのち、閉会の挨拶を行い15:30無事終了した。

(記、写真 牧石 稔⑭)

◆ 横浜市立上瀬谷小学校 間伐体験

- 日 令和5年5月19日(金) 10:00~12:30 曇りのち雨
 場 長竹継承分収林
 参 大人7名、子供5年生2クラス 63名、計70名
 財 古舘様
 イ L 牧石⑭、佐藤(武)⑤、滝澤⑤、野牛⑧、西出⑫、
 松石⑬、石垣⑮、岡村⑯、小林⑰

当日の相模原市緑区长竹の天気予報は降水確率、午前30%、午後70%の予報でしたが予定通り間伐活動をスタートしました。9:45 集合場所の葦尾根・ふれあいの広場にバス到着。8班に分かれ用具が置かれている林道まで移動したのち用具の装着を行い、作業道を登り間伐エリアに移動、10:15 には各班間伐活動スタートしました。

選木を行ったのち、間伐手順の説明、ロープ掛けを行い、子どもたちが交代で、受け口、追い口を切った後、インストラクターは受け口方向の再確認及び修正をおこ



なったのち掛け声とともにロープをひくと、狙った方向に見事に倒れる班、見事に枝掛りする班(滑車の位置変えで対応)がありましたが、全班見事に倒していました。枝払いを行なったのち、コースターの作成も行いました。予定では12:30~林内で昼食を取る予定でしたが、12時前より雨が降り始めた為、予定を変更し12:15で下山し、活動を終了しました。

(記、写真 牧石 稔⑭)

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は8月号です。

森のめぐみ シリーズ

◆ 横浜市立公田小学校 自然観察

- 日 令和5年5月24日(水) 14:00~16:30 晴
 場 愛川ふれあいの村 自然観察
 参 大人7名、37名
 イ L 内野⑨、西出⑫、石垣⑮、加納⑯、鈴木⑰

活動のテーマは「神奈川の豊かな自然に子どもたちが気づくことができる機会にしたい」です。

愛川ふれあいの村の手入れされた自然と、村の外周の自然そのままの森を比較できるコースを設定して午前中に全員で下見を行いました。愛川ふれあいの村は初めての方もおられたので、観察できるもの、森林のはたらきや生きものつながりなどの話ができる場所などの情報を共有しました。

班編成は6班、「5・6班を合同で」との要望で、リーダーが13名を担当、少ない班は5名とばらつきがありました。シカの糞やムササビの食痕などを見つけたり、鳥の声や風の音を聞いたり、たくさんの植物や生きものと出会い、自然のつながりを考えたり、葉の感触や匂いなど五感を十分使った体験型を意識して観察したので楽しそうでした。巣箱の中から顔をだしたムササビに出会えた班がありました。活動前は、2時間半は長いかなと思っていましたが、終わってみると「もう終わり？」というほど生徒さんたちは時間を感じなかったようでした。

各班の振り返り報告で、班によって生徒さんの反応に差があったようでしたが、ネイチャーゲームを取り入れて関心を引いたという報告がありました。自然観察の手法も様々だと感じました。



ムササビの食痕
(オニグルミの葉を食べている)



キイロテントウ
(4mmほど、幸運を呼ぶという)

(写真、記 内野 ミドリ⑨)

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

森の案内人が土日に案内をしています。今年からの新しいメンバーも加わり、案内人一同皆様の訪問をお待ちしています。

「水源林ニュース」

6月号「緑にぎやかな水源林へようこそ」を発行しました。こちらからご覧ください

http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news204.pdf



森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP担当：森本 利弘)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel : 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先 : 080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小国 一男

Mail: ka-oguni@ab.auone-net.jp

原稿は随時受け付けています。

●やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラスみどり財団

TEL : 045-412-2255

FAX : 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

(かながわ)森林インストラクターの会

ホームページ <http://www.forest-kanagawa.jp>

E-mail k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

編集後記

★ アジサイ、ウツボグサ、ツユクサ
…雨の季節に青い花が多いのは、空の色を覚えておいて♥と青い花たちの猛アピール?

梅雨のころに咲き、その花を摘むと雨が降る…そんな言い伝えで日本人は雨降り花(あめふりばな)と呼んで愛でてきました。ホタルブクロ、ツリガネソウ、ヒルガオ、ギボウシ・・・

あなたの雨降り花を探しにでかけてみませんか? (小池)

★週に2~3回、自宅近くの多摩川の遊歩道をランニング&ウォーキングしています。

雨の季節になると、カタツムリがアスファルトの遊歩道を横断しているのによく出くわします。そこそこつぶされた跡もあります。自身は踏まないよう視線を下方前面にやり、発見したら避ける動きをします。他の人にぶつからないよう周りへの注意も必要です。

自転車も通る遊歩道を無理に横断しなくてもいいのに、とってしましますが、コンクリートを食べているとの説もあり、何かしら目的があるのでしょね。

この季節、ランニング&ウォーキングの安全目標は「足元注意」です。

(小国)

7月からの新役員体制

6月11日の通常総会(総会の様子は、巻頭に掲載)にて、役員が改選されました。各役員の役割分担は下記のとおりです。

氏名 (期)	役員	役割
黒川 敏史 ⑭	理事 (再任)	理事長
小林 照夫 ⑯	理事 (新任)	副理事長、事業企画委員長
佐藤 恭平 ①	理事 (再任)	事務局長
野村 昭憲 ⑭	理事 (再任)	総務部長
野牛 雪子 ⑧	理事 (再任)	NW 派遣管理部担当理事
松浦 正 ⑯	理事 (新任)	会計担当理事
河西 静夫 ⑮	理事 (新任)	報道・情報担当理事、広報担当理事
高谷 秀史 ⑰	理事 (新任)	安全管理委員長、技術委員長
岡村 寛 ⑯	理事 (新任)	ホームページ改善担当
上宮田 幸恵⑩	監事 (再任)	監査役
末原 興一 ⑮	監事 (再任)	監査役

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。 便振替口座 00230-0-2454 **かながわ森林インストラクターの会**宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 松本保 笠原かずみ 長尾晴子 竹内明彦 小林照夫 小国一男 小池宗子 支援: 大原正志 吉田郁夫